

17. 焼 板

1. ね ら い

焼板を作ることを通して、制作の喜びを味わうとともに、手づくりのよさに気づかせます。

2. 時期・時間・人数

- 年間を通じて活動可能
- 3 時間
- 屋内：50人程度（クラフトホール）
屋外：160人程度（本館炊飯場）・120人程度（屋根付炊飯場）

※ただし、用具を事務室またはクラフトホールから運ぶ必要があります。

3. 準 備（よくお確かめください） ●は当所売店で購入可能です。（要予約）

自然の家で貸し出しできる物（用途）	利用者で準備する物（用途）
火ばさみ（板を焼く） ガスバーナー用ノズル（板を焼く） 焼板用たわし（焼いた板を磨く） アクリル絵の具（絵付け） シーラー（木の下地塗り用） ニススプレー（つや出し） 筆（アクリル絵の具用・シーラー用） 水入れ（シーラー用・絵の具用）	●杉板 ●まき（板を焼く） 又は●ガスバーナー用ボンベ（板を焼く） 軍手（板を焼く） 布きれ（板を磨く） 新聞紙（板を磨く） マッチ・ライター（まきへの火付け用） ※材料の注文はご利用2週間前までに お願いします。

4. 活動内容

（1）活動の流れ

※野外炊飯と組み合わせることも可能です。〔例〕野外炊飯時→焼き、翌日→ペイント

内 容	時 間
<ul style="list-style-type: none"> • 事務室に連絡して用具の貸し出しを受けます。 • 作りかたを説明します。 • 制作（①焼く②磨く③描く） • 後始末とまとめ • 事務室に連絡して用具返却の確認を受けます。 	20分 20分 2～4時間 20分 10分

（2）展開例

- ①全体の構想をまとめます。
 - どんな形のものをつくり、その用途や、図柄の段階までを考えます。
- ②その構想を実際に杉板に図案化します。
 - この時、あまり細かなものは、焼くと消えてしまうので、図案の段階で除くようにします。
- ③まきに火をつけます。（ボンベを購入すれば、ガスバーナーを使うこともできます。）
 - 風向きやまきの組み方に気をつけます。
 - カマドで1人ずつ自分の板を焼く場合は、1カマド10人くらいで行います。
（まきの数は、1カマド1束が目安です。）
 - クラフトホールで行うときは、ススが中に入ってしまうように、クラフトホールの扉は必ず閉めて行いましょう。

④杉板を焼きます。

- できるだけ裏表とも均等に焼きます。焼きすぎると板目がきれいに出ないことがあります。
- さらに焼きすぎると板がそったり、うすくなることがあります。
- 板の角や横の部分をよく焼くようにするとやわらかな線が出ます。
- 板を焼いて赤くなっても水をかけたり、たたいたりしないでください。
- 板を数枚焼く場合は、焼き終わった板を重ねたり、燃えやすい場所に置かないようにして下さい。
- 板を焼き終え、板が冷えるまで、その場を離れないようにしてください。

⑤黒く焼けた炭の部分を焼板用たわしできれいに取ります。

- この作業は、粉が落ちるので屋外で行いましょう。
- この作業を確実に行うことで、板目もはっきりし、絵の具ののりもよくなります。

⑥布又は新聞紙できれいにふき取ります。きれいにふくことで、よりよいつやがでます。

⑦絵付けをします。板目や構図により裏表を決めます。

- 全体に絵の具を塗ることや多くの色を使用することは、焼板の素材の良さをそこなうことになるのでさけましょう。

⑧絵の具の乾燥を十分に行う。

- 焼板の用途（置物、壁飾り等）に応じて、穴をあけたり、くさりやひも等で装飾します。

⑨作品の完成です。



5. 留意点

- (1) 杉板を焼く際には、やけどをしないように注意しましょう。
- (2) 清掃と後片付けをしっかりとしましょう。